

## 2024年度事業報告

### I. 概要

2024年度の住宅着工は、分譲住宅が減少したものの、持家、賃家が増加し、全体では前年度比で2.0%増、81.6万戸と3年ぶりの増加となった。

住宅施策においては、2050年カーボンニュートラル実現に向けて改正建築物省エネ法、改正建築基準法が2025年4月から施行され、全ての新築住宅に省エネ基準の適合が義務化される。さらに、2030年度までには適合すべき省エネ基準がZEH（ゼロエネルギーハウス）水準に引き上げられる。また、国土交通省・経済産業省・環境省の3省連携による「住宅省エネ2025キャンペーン」が一昨年度から引き続いて実施され、「子育てグリーン住宅支援事業」をはじめとした支援制度により、高効率給湯器、高断熱サッシなど省エネ住宅部品の普及の加速化が図られている。

これらの動きを踏まえつつ、「良質な住宅部品の供給・普及」「優良住宅ストック社会実現に向けた貢献」という当協会（ALIA）のミッションを果たすべく、中期活動計画（2020～2025年度）の3項目と、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献するための「ALIA こども応援プロジェクト」推進の計4項目を柱としつつ、事業活動が社会課題の解決や住宅産業の持続的発展に寄与することを意識しながら、（一財）ベターリビング（以下「BL」）をはじめとする関連団体との密接な連携の下、各専門部会、空間等別部会、部品別委員会等を中心に積極的な事業活動を展開した。また、事業活動の効率化・合理化に向けた部会・委員会等のあり方やALIAの収支構造の改善策について、検討を進めた。

### II. 主要活動事項

#### 1. 良質な住宅部品の供給・普及

##### (1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及

〔SDGs 目標：3、6、7、12、13、14、15〕

- ① 国土交通省・経済産業省・環境省の3省連携による「住宅省エネ2024、2025キャンペーン」の各事業などの住宅の省エネ化に関する国の支援制度等について、情報収集と会員への共有を図った。
- ② 断熱性能に優れた外皮仕様について、工務店や一般消費者への普及を進めた。
- ③ 開口部の熱性能評価プログラム「WindEye」について、省エネ基準適合義務化への対応など機能向上・充実に向けた検討を進めた。
- ④ BL-bs 部品を含む BL 部品の普及促進に努めるとともに、ユーザーへの BL 製品の認知度向上を図った。
- ⑤ 魅力ある BL 部品のために、シャワーユニットをはじめ認定基準・評価基準の策定・改正作業に協力した。

##### (2) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応 〔SDGs 目標：3、8、9、12〕

- ① 省エネ、働き方改革、子育て支援などの課題に対応するための住宅部品のあり方についての情報収集、調査を実施した。

- ② 2050 年カーボンニュートラル実現に向けた各種施策等の認知度や課題、省エネ化リフォームの加速につながるキーワードなど、住宅部品と消費者の関わりを調査・研究した。
- ③ 次世代の住宅に求められる IoT 等の新たな技術・サービスに関し、国や関係機関の研究・施策等の情報収集を行うとともに、今後の ALIA の取組み方針・内容について検討した。
- ④ 物流の 2024 年問題に対応し、宅配ボックスや郵便受箱について、性能向上、普及促進に取り組んだ。
- ⑤ 鋼製物置における地震に対する耐久性の調査・研究を進めた。
- ⑥ その他、国の住宅関連施策や社会情勢等について常に情報収集を行い、新たな課題に迅速に対応した。

## 2. 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

### (1) 安全・安心な住宅部品のあり方の追求 [SDGs 目標：12]

- ① 故障時の危険度の大小や点検のしやすさなどの観点からの住宅部品の類型化を踏まえ、望ましい点検のあり方について研究を進める。
- ② 商品開発や意識啓発等につなげるため、住宅部品の劣化・故障と買替等に対する消費者の意識や点検行動等を調査した。

### (2) 適切な維持管理（点検）からリフォームへつなげる仕組みの構築

[SDGs 目標：8、11、12]

- ① 「点検」の位置付けの再確認を行いつつ、「住宅部品点検の日」関連イベントを開催するとともに、消費者向けイベントへの参加、消費者団体を通じた普及などを推進した。
- ② 「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」等のあり方を検討し、それらの活用により、ビルダー及び消費者への点検文化の普及啓発を行った。
- ③ 住宅部品関連団体との連携を継続し、点検に関する情報共有、消費者への情報発信方策の検討等を行った。
- ④ 住宅部品の点検にとどまらず、経年劣化による危険な部品の取替えやリフォームへつながるツールの企画検討・制作や、部品の適切な取替えを促すためのメーカーが提供できる情報について調査検討を行った。ビルダーに向けた「お手入れポータルサイト」の構築について、上半期に提案書、下半期に実行計画書を作成した。
- ⑤ 住宅部品の維持管理からリフォームへのビジネス展開の事例・傾向について情報収集、共有を行った。
- ⑥ 「住宅リフォーム事業者団体登録制度」や「安心R住宅」など、国のリフォーム関連施策の情報収集・提供、対応方策の検討等を行った。

### 3. 「ALIA こども応援プロジェクト」の推進

〔SDGs 目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17〕

- ① 2024 年度上期の第3弾で 66 団体、下期の第4弾で 66 団体の「こども食堂」へ商品等提供を行った。第3弾の実施により全国 47 都道府県の「こども食堂」への商品等の提供が達成され、累計 273 団体への支援を実現できた。
- ② 提供商品等の活用状況等をフォローアップし、支援のあり方や手続きの改善等を行った。
- ③ 第4弾開始時のこども家庭庁での記者会見、ホームページ公開・ニュースリリースなど多様な方法による情報発信を行った。

### 4. 政策提言・提案・情報発信の強化 〔SDGs 目標：17〕

- ① 国土交通省との意見交換の場の設置を通じて、市場動向情報の提供、国施策への意見や政策に係る提言、予算等の要望を行った。
- ② 国の制度・予算に関する要望を取りまとめ、(一社)住宅生産団体連合会（以下「住団連」）、(一社)住宅リフォーム推進協議会（以下「リ推協」）と連携して要望を行った。
- ③ 住団連、(一社)ベターライフリフォーム協会、リ推協など関連団体と連携しつつ各種活動を展開した。
- ④ 機関誌（ALIA NEWS）、ホームページ、メールマガジンのそれぞれの特性を考慮しつつ、会員及びユーザーへのタイムリーな情報発信を行った。
- ⑤ 研究成果報告会を開催するとともに、各事業の進行に合わせ、情報発信等の広報活動を行った。

## III. 事業企画部会〔SDGs 目標：全般〕

- (1) 事業計画や予算など、運営委員会への付議事項について検討を行った。
- (2) 企画WGを設置し、ALIA の価値を高めるため会員に対する魅力充実方策、対外的な活動の発信方策、新規入会の拡大方策、会費の見直し等 ALIA の収益構造の改善について検討を進めた。
- (3) 国土交通省に対して市場動向情報の提供、国施策への意見や政策に係る提言、予算・税制要望等を行った。7月18日には意見交換会を実施し、国土交通省に対して政策提言、予算・税制要望、子育て支援・配慮に係る会員各社の住宅部品の提示、提案を行った。
- (4) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と対応方針の検討を行った。

## IV. 広報部会 〔SDGs 目標：全般〕

国の住宅政策等の収集とタイムリーな発信を行うとともに、ALIA 事業の認知度向上を目指し、各部会・委員会と効率的に連携した広報活動を進めた。

- ①ALIA NEWS の発行（年4回）
- ②WEB サイトの充実・活用
- ③広報イベントの実施
- ④研究成果発表会の開催

また、SDGs 推進部会と連携し、「こども応援プロジェクト」について、6月に第

3 弾募集にあわせて関係省庁記者クラブ等対象に報道発表を行い、11 月の第 4 弾募集開始にあわせ、こども家庭庁・NPO 法人「むすびえ」と合同で記者会見を実施した。

#### 【ALIA NEWS 編集委員会】〔SDGs 目標：17〕

ALIA NEWS を季刊で 4 回編集・発行した。

- ① 春号 (Vol. 183 : 2024 年 5 月 20 日発行) : 特集「物流問題と住宅産業」
  - ② 夏号 (Vol. 184 : 2024 年 8 月 10 日発行) : 特集「住宅産業におけるライフサイクルカーボン」
  - ③ 秋号 (Vol. 185 : 2024 年 11 月 20 日発行) : 特集「住宅部品の長期使用と安全点検」
  - ④ 新年号 (Vol. 186 : 2025 年 1 月 20 日発行) : 特集「2025 年を迎えて」
- 特集テーマのほか、巻頭言、ALIA、BL、JHF 等の活動紹介、行政の動き、会員各社及び団体の事業活動や新技術・新製品紹介等を掲載した。

#### 【WEB 企画・管理委員会】〔SDGs 目標：12、17〕

- ①ALIA の主要行事や活動内容の発信
  - ・ 2024 年度理事会・総会の開催
  - ・ BL・ALIA 研究成果合同発表会開催
  - ・ ALIA こども応援プロジェクトの活動
  - ・ 調査研究報告書の掲載 他
- ②WEB サイトの充実
  - ・ サイト活用部門のサポート (住宅部品点検推進部会)
  - ・ 「住宅部品の基礎知識～アメニティ Café」の活性化のために、トップページUI (ユーザー・インターフェイス) の改善検討しリニューアル実施
  - ・ SDGs 貢献活動サイトの更新
  - ・ 「ジュウテン」サイトのアクセス増加・露出強化の検討
- ③WEB サイトの管理
  - ・ WEB サイトおよび動画の運用ルール並びに掲載手順の見直しを行い、周知を図る。
  - ・ 「ジュウテン」四半期アクセス報告
  - ・ 古い情報を整理する
- ④定期メールマガジンの企画・配信
  - ・ ALIA の活動を紹介する定期メルマガを企画・配信 (毎月)
  - ・ 定期メルマガの方式・内容等改善検討

#### 【イベントWG】〔SDGs 目標：12、17〕

住まい手が、住宅部品点検の重要性を気づき、点検を行い、安全で快適な生活が実現するために、

- ① 「第 13 回住宅部品点検の日シンポジウム」の推進と広報活動を実施した。
- ② 広報部会と連携し「BL・ALIA 研究成果合同発表会」の運営を行った。
- ③ 住宅部品点検推進部会 4 委員会等関連委員会との連携及び協調性を図った。
- ④ 「ジュウテンジャー」の効果的活用法を検討し点検の推進を図った。

### ＜シンポジウム開催＞

新型コロナウイルス対策を考え WEB(Zoom ウェビナー)開催を軸に準備し開催した。

参加：196 名（会場の登壇者・スタッフ含む、1 アドレスは 1 名とカウント）

（申込：234 名、アンケート回答：127 名）

#### ① 日程・会場の決定

- ・日時：2024 年 10 月 11 日（金）14：00～16：30
- ・場所：オンライン配信（ベターリビング会議室）

#### ② 住宅部品点検推進部会と連携し、テーマ・内容・登壇者の構成を決定

- ・テーマ：居住者による自主点検と、事業者によるアフターフォローでリフォーム事業の拡大～事業者と居住者とが繋がる工夫やツール類実例によるビジネスのヒント～

#### ・セミナー

テーマ：1000 社の取材でわかったリフォームのための顧客との関係強化の方法

講演者：株式会社リフォーム産業新聞社 取締役 福田 善紀 氏

#### ・プレゼンセッション

メンバー：株式会社リフォーム産業新聞社 取締役報道部長 福田 善紀 氏

株式会社ハウステックス 代表取締役 佐藤 義明 氏

株式会社創建 代表取締役社長 有村 忠一 氏

ALIA 広報部会 イベント WG 齋藤 千秋

- ・後援：国土交通省等 5 団体

- ・協賛：ベターリビング等 40 団体

#### ③ チラシの作成、データ配布による会員・協賛団体への告知

#### ④ HP での告知・動員と、HP を使った申込み受付と管理

#### ⑤ PR TIMES を活用した広報活動を実施

#### ⑥ プレゼンセッションのシナリオ作成、登壇者との打ち合わせ実施

#### ⑦ 運営マニュアルを作成し会場におけるランスルー（リハーサル）を事前に行い、無事故の運営を実施

#### ⑧ WEB による来場者アンケートを実施し、次回以降の開催検討に活用

### 3. その他

他の部会・委員会と連携して進めている事業について

- ・住宅部品点検推進部会と連携した上記シンポジウムを開催した。
- ・広報部会と連携した「BL・ALIA 研究成果合同発表会」の開催・運営実施。
- ・シンポジウムの結果報告を ALIA ニュースや HP 等で実施。

次年度住宅部品点検の日関連イベント開催に向けて住宅部品点検推進部会と連携し検討実施。

## V. 専門部会

### 1. 消費者・制度部会 【SDGs 目標：8、9、12、17】

会員各社が提供する住宅設備・建材等の住宅部品が、現在はもとより、将来的にも、居住者の暮らしを安全で快適なものにするため、以下の事業を実施した。

#### (1) 住宅部品と消費者との係りの調査・研究

2023 年度調査を踏まえ、以下の 4 つの仮説を立て、その検証のため「住宅部品の取替喚起に向けた調査」を実施した。

【きっかけ作り】

1. 「劣化状態確認方法」、「推奨取替時期」を知ってもらう情報提供
2. 恐怖訴求でなく、前向きに取り替えたい思える情報提供

【資金不足という心理バリアの解消】

3. “急な出費”と思われないようにするための積立を促す情報提供
4. 住宅事業者が居住者に適切な手案を行うための関係強化

調査は、2 グループ計 10 名によるグループインタビュー。調査住宅部品は、①グループ：給湯器（取替えを意識したきっかけ：壊れる前に取り替えたい 利用期間 10 年以上）、②グループ：キッチン（同：壊れる前に取り替えたい、汚れが気になった、古くなった 利用期間 20 年以上）。調査結果は 2 グループ別に、過去のリフォーム実施経験、今後検討しているリフォーム、知覚刺激による態度変容の確認を調査、分析した。

(2) 消費者経営の在り方について

JAL SKY MUSEUM・格納庫(整備工場)施設見学し、同社の創成期から現在にいたるまでのサービスや史料を閲覧するとともに、多様な消費者接点より、同社のブランド力向上の実態を理解した。

(3) 建築行政・制度情報の収集と展開

以下を実施した。

- ・改正法に関して（建築基準法・建築物省エネ法）情報共有
- ・「検査済証のない建築物に係る指定確認検査機関を活用した建築基準法適合状況調査のためのガイドライン」情報共有
- ・既存不適格建築物の増改築などにおける防火関係規定の緩和の情報共有
- ・BIM 環境整備の進捗状況周知

## 2. 環境部会 【SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17】

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、消費者から見た課題把握を行い、今後の普及活動に活かすとともに、国交省・経産省・環境省の環境・省エネ等に関する施策情報の収集・共有を行い、対策等の検討を行った。

(1) 調査研究事業

「2050 年 CN に貢献する省エネ・再エネ設備の消費者の認知度把握調査」を実施した。

- ・調査手法 インターネット調査
- ・調査エリア 省エネ基準地域区分「6」地域を含まない 36 都府県
- ・対象者条件：30～69 歳の男女 新築戸建て住宅の購入を予定
- ・実施期間 2024 年 12 月 13～19 日

省エネ・再エネ設備の認知と理解を調査し、情報提供により導入優先度の変化が確認できた。

- (2) 省エネに優れた住宅・施設である新さっぽろ駅周辺地区Ⅰ街区にエネルギー（電力、温水、冷水）を供給している新さっぽろエネルギーセンターの見学等を行い、各社での環境活動の参考とした。

### 3. リフォーム・施工部会 【SDGs 目標：7、8、11、12、13、14、17】

#### (1) リフォーム市場の活性化

##### ① 他団体との協業

住団連（住宅ストック委員会（11回）、技能者問題委員会（5回））、リ推協（市場環境整備委員会（7回）、技術情報委員会（6回））に参加し、省エネリフォームや部分断熱リフォーム工事拡大のための支援策、技能者問題等についての検討を行った。

##### ② 国への提言

既存ストックの省エネ化、良質なストック形成に繋がる税制・予算（施策）要望についてとりまとめ（8項目）、住団連・リ推協を通じて国への提案を行った。

##### ③ 情報発信及び収集と共有

- ・住団連等、他団体との協業によるアンケート調査の実施と結果の共有
- ・他団体活動や他団体作成の冊子等の共有
- ・2023年度調査「断熱リフォーム普及に関する課題把握調査」内容共有

#### (2) 調査研究事業の実施

「既存住宅の断熱リフォーム推進に向けた課題把握調査」を実施した。

昨年度の調査から、業者選びや工事の規模感を決めるプロセスへの負担をはじめ、「寒さを感じてもリフォームまで考えが及びにくい」「夏場の快適性が実感されにくい」「費用に不透明感がある」といった課題が見えてきた。今年度はこの課題に対し、世代間の価値観の違いにも左右されること等を考慮し、エリア別、性別・年代別に断熱リフォームの訴求ポイントとして考えられる要素が消費者にとって魅力的と感じられるか等について、定量的な検証を行った。

#### (3) 技能者問題の検討

管理技術者等の専任制度に関する見直し（緩和）方針、建設キャリアアップシステム（CCUS）の普及と課題等に関する情報の共有を行った。

### 4. 住宅部品点検推進部会 【SDGs 目標：11、12、17】

上半期に『お手入れやメンテナンス・保守の意識向上を目指す』ということを中心として点検推進部会ビジョンに加えてお手入れというアプローチを追加した。

10月11日に『住宅部品点検の日シンポジウム』を開催し、実視聴者数は196名であった。次回シンポジウムに向けてよりいっそう充実したものにするための検討を下半期に実施した。ビルダーをターゲットにシンポジウムを開催することにして次回は3年目となるため、3年間の整理取り纏めを行い検討のベースとした。

お手入れというアプローチの追加と3年整理から、点検普及ビルダー対応委員会で手掛けている『お手入れポータルサイトの構築』が導き出され次年度の試行に向けた準備を実施した。

#### (1) 点検（お手入れ）を当たり前化し、点検（お手入れ）からリフォームへ導く仕組みの構築

- ① ジュウテンジャーぬりえキャンペーンを開催（9/18～11/18）。
- ② ショールーム研修会（11/15）を開催。

- ③「ジュウテンサイト」の利用促進に向けたコンテンツ拡充およびビルダーヒアリングに基づきビルダーに向けた『お手入れポータルサイトの構築』を検討中。上半期に提案書を完成させ、下半期には実行計画書を完成させた。
- (2) 点検のあり方の検討、有用な情報発信・提案  
点検結果を受けてのアクションを明確にする『住宅部位・部材別点検事象対応一覧表』の作成を検討した。
- (3) 関連業界を通じた点検（お手入れ）の当たり前化  
家電製品協会に対して活動内容に関する質問票を送付、回答から得られた知見等を活動の参考とした。今後もコンタクトを継続し、連携した活動に向けた可能性を探る。  
住宅産業協議会メンテナンス研究会との情報交換会を実施した。住宅の点検維持管理からさらに進めた住宅資産価値向上も考慮した連携をする ALIA 自主点検活動のステップアップを目指す。
- (4) 『自分で点検！ハンドブック』は、内容に対して高評価が得られているので、中身のリバイスよりも先にさらなる周知強化策の検討を進める。

#### 【点検普及ビルダー対応委員会】 【SDGs 目標：11、12】

- (1) 「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」を用いたビルダーへの更なる普及啓発策の検討・実施
- ・年度末に実施予定であった日本ツーバイフォー建築協会、BLR 協会向けセミナーは、日本ツーバイフォー建築協会はテーマ変更により今年度は取りやめ、また BLR 協会については新たな内容の要望に対し現在進めているお手入れポータルサイトの内容を組み入れて次年度下期に対応する方針とし、今年度は取りやめた。次年度については改めて調整を行う。
  - ・(株)ノーリツからの依頼を受け、昨年 point検の日シンポジウムで行った自分で点検実態調査の発表を 10 月ノーリツフェアのセミナーで実施。参加者 54 名、満足度 97%であった。後日参加いただいた長谷工様より「自分で点検ハンドブック」の内容を機関誌に掲載したいと要望をいただいた。40 万超のユーザーにハンドブックの内容をお届けできる見通し。
- (2) 点検普及に向けた施策検討・実施
- ・JBN ビルダー4 社に顧客との関係維持の取組みや「自分で点検」についての考え、また ALIA のツールについてヒアリングを実施。
  - ・メーカーのアフターサービス部門 2 社に対し、「自分で点検」について考えや ALIA のツールについてヒアリングを実施。
  - ・これまでの自分で点検！HB の普及啓発活動やセミナーアンケート、また今期行ったビルダーヒアリングや会員会社のサービス部門ヒアリングの結果を踏まえ、WEB を通してお手入れ、点検情報を提供するお手入れポータルサイト構築の検討を開始、立案した。次年度の試行を目指す。
  - ・昨年度からタカラスタンダード（株）に多数の「自分で点検！ハンドブック」を購入、活用いただいております、その活用実態を明らかにするためのアンケートに協力いただいた。結果を今後の活動の参考とする。

## 【点検普及消費者対応委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

安全で安心・快適な住生活をおくるためには、居住者が住宅部品の長期使用の危険性を認識し点検・維持管理を行なうことが望まれる。また、これにより良質な住宅ストックの形成、リフォーム需要の顕在化に繋がることが考えられる。点検普及消費者対応委員会では、居住者となる消費者に対し点検文化の啓発・普及のテーマに取り組む。

(1) 消費者関連団体や自治体と連携し消費者への普及啓発活動を行った。

住宅部品ショールーム研修会を（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）東日本支部と、パナソニック横浜ショールームにて開催。

- ・開催日：2024 年 11 月 15 日（金）
- ・研修内容：SR 見学・ALIA 紹介・住宅部品の経年劣化と点検の重要性
- ・ALIA 住宅部品点検ツールご紹介・ALIA 点検動画ご紹介
- ・意見交換「消費者への点検情報の伝達展開策など」
- ・参加者数：14 名

※2025 年度開催は引き続き NACS を対象とし、検討・調整する。

※点検啓発チラシの改善要望があり、現行チラシの配布方法も含め、次年度に向け引き続き検討を行う

(2) 新たな消費者啓発策の企画検討

①ジュウテンジャーぬりえキャンペーン企画

- ・目的：ぬりえを通じて住宅部品点検の消費者啓発を行う。
- ・テーマ：ジュウテンジャー ぬりえキャンペーン 2024  
～住宅部品をチェックしよう～
- ・募集期間（2024 年 9 月 18 日～2024 年 11 月 18 日）で実施。
- ・公募方法：公募ガイド ONLINE（無料）・リスティング広告  
PRTIMES 広告・協力団体メルマガなどにて周知
- ・対象：幼・保育園～小学生（日本国内）対象
- ・賞品：図書カード NEXT(1,000 円分)、抽選で 80 名様
- ・アンケート：ジュウテン HP「応募フォーム」にて実施
- ・ジュウテンジャーぬりえ台紙（2 種類）
- ・ぬりえ作品はジュウテン HP 上へ掲載

※結果：応募点数：231 点（対前年 170%）

ニックネーム数：130 名（対前年 181%）

②消費者関連施設やイベントなど視察

視察先：神田川・環状七号線地下調節池

開催日：2025 年 2 月 6 日（木）

## 【業界連携委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

(1) 普及・啓発活動の継続・発展

- ・昨年からの継続で 28 の住宅部品関連の団体に対し「住宅部品点検の日」シンポジウムへの協賛を依頼し、承諾を得た。
- ・協賛団体に対し「ジュウテン」サイトへの点検ツール等の提供を依頼したところ、新規（日本照明工業会）、追加（日本サッシ協会）、URL の変更（日本ガス石油機

器工業会、日本窯業外装材協会）の申込みがあった。新規の照明については、掲載順のルールに従い、居室まわりの最後（住宅用火災警報機と窓ガラスの間）に追加した。その結果、16 団体・18 ツールの掲載となっている。

(2) 活動の深掘り・拡がりを目指した取組み

- ・家電製品の安全確保活動において実績のある（一財）家電製品協会との連携に向け、「自分で点検！ハンドブック」「自主点検表」とも共通点がある「愛情点検 チェックリスト」との内容比較、「家電製品の安全確保のための表示に関するガイドライン」の精査、協会 HP の構成や内容確認等を行い、それらの検討を踏まえて質問票を送付、回答を頂いた。12 月には「ジュウテン」サイトへのツール提供に関する打合せも兼ねて事務局を訪問した。今後も継続的にコンタクトをとり情報交換を行う等、得られた知見を ALIA 側の活動の参考とするとともに、連携した活動に向けて可能性を探る。
- ・過去の住宅部品関連団体連絡会等の活動内容や、過去の委員会での検討内容等を委員間で共有し、今後の活動に関する検討材料とした。

【住宅部品点検研究委員会】 【SDGs 目標：11、12、17】

委員会では、マスタープランと活動計画を基に、各委員と議論し、意見募集を行い、活動を行った。特に下記項目を重点的に各委員と内容の深掘り調査、分析、討議を行った。

- (1) 2021 年度の住宅部品の「点検行動の分類・類型化」のまとめを踏まえ、点検（お手入れ）の意味、および住宅事業者と連携し消費者が行動変容を起こすには、どうあるべきかという課題について

○点検する目的を改めて整理するとともに「住宅部位・部材別事象対応一覧表(案)」と「自分で点検 ハンドブック」に結びつける前段階での気づき内容について改めて深掘りする必要があることから、お手入れやきっかけづくりについて整理しつつ深掘りを行い、5 つの取組み目的を共有認識し軸がぶれないよう重点的に取り組んだ。

- ① 工務店、ビルダー向けツール
- ② 消費者に対し「自分で点検ハンドブック」活用への導きツール
- ③ 消費者が自ら自発的にお手入れ、チェックいただくきっかけづくり
- ④ 住宅部位を安全に長持ちさせるための大事さを伝える
- ⑤ 交換時期の目安提言

上記踏まえお手入れに対する自発的意識向上に繋がるよう深掘りを実施することにより(2)、(3)について新たな深掘りもできた。

- (2) 住宅事業者が消費者との信頼を形成し点検普及やリフォームに繋がるための課題整理

- ・雛形をベースに内容の深掘りを実施。
- ・他団体のツール、冊子等の項目内容について参考に実施。

<今後の課題>

- ・アウトプットイメージや事象項目の整理。
- ・紙媒体ではなくスマートフォンなどで閲覧できるツールを検討。
- ・共通用語の整理を検討。

- (3) 住宅部品の取替えを促進する点検のあり方を検討し、リフォームに繋げていくいく視点で取り組む。
- ・お手入れ前段階から点検までの目的を明確に整理する必要があることから内容を見極めるという観点で整理を行った。
    - ①お手入れ、お掃除から気づく具体的な内容
    - ②お手入れから繋がる防止内容
    - ③お手入れから繋がる早期発見の重要性
    - ④消費者と業者との対応範囲の区分
    - ⑤体感からの気づきこと
- (4) 他委員会との連携を強化するとともに消費者団体や住宅生産者および住宅事業者実務担当者との意見交換やメーカーの消費者対応部門へのヒアリング等も行い、消費者の点検行動変容を分析し検討していく。
- ・他委員会の実施アンケートや取替喚起に向けた調査報告書内容を基に分析し「住宅部位・部材別事象対応一覧表(案)」項目内容の整理を行った。
  - ・関連部門との意見交換や一般消費者とのヒアリングからの情報収集で更なる深掘り内容の検討を引続き行っていく。

## 5. SDGs 推進部会 【SDGs 目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17】

### (1) 「こども食堂」への商品等提供

#### ①ALIA こども応援プロジェクト支援の継続

2023 年 5 月より正式にスタートした「ALIA こども応援プロジェクト」について、2024 年度は第 3 弾、第 4 弾の支援を実施。

#### ②第 3 弾の支援実績

募集期間は 6 月 17 日～7 月 1 日まで、会員 15 社から 21 種類の商品・サービスを、計 66 団体に提供する公募を行った。

全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ募集し、延べ 267 団体から応募があった。むすびえにて支援先の選定を行い、10 月までに計 66 団体への支援を実施した。第 3 弾までの支援で、全国 47 都道府県のこども食堂への支援が達成できた。

#### ③第 4 弾の支援実績（一部予定を含む）

募集期間は 11 月 21 日から 12 月 4 日まで、会員 17 社から 23 種類の商品・サービスを、計 100 団体に提供する公募を行った。

全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ募集し、延べ 281 団体から応募があった。むすびえにて支援先の選定を行い、3 月までに計 67 団体への支援を実施した。

#### ④第 5 弾に向けた議論・検討スタート

2025 年 5 月公募開始に向け、部会・PT で準備を開始した。

### (2) 「ALIA こども応援プロジェクト」に関する情報発信策の充実検討

#### ①記者会見の開催

11 月 21 日（木）こども家庭庁記者クラブにおいて、記者会見を開催。こども家庭庁の吉住支援局長・むすびえ渋谷理事同席のもと、「ALIA こども応援プロジェクト」の概要、これまでの支援実績と第 4 弾の支援内容について説明した。

## ②SDGs への貢献活動（こども応援プロジェクト）サイトの更新

ALIA の WEB サイトに、こども応援プロジェクト概要および住宅部品 SDGs 宣言周知のための専用サイトを 2023 年度に開設したが、これまで実施した支援内容について掲載（19 件）、更には随時本年度支援内容について追加掲載（9 件）を行った。

## (3) こども食堂の視察・体験

2025 年度の支援内容、或いは 2026 年度以降の取組みを考える材料とする目的で、実際に支援したこども食堂の視察（1 か所）、むすびえ企画によるこども食堂の体験等（2 か所）へ参加した。

# VI. 空間等別部会・部品別委員会

## 1. トイレルーム部会〔SDGs 目標：3、6、7、8、12、17〕

### 【温水洗浄器委員会】【洗面化粧ユニット委員会】

消費者の方へ「快適かつ安全で安心な住生活をおくっていただくため」の情報提供に取り組んだ。また、商品およびその周辺情報の収集と共有や課題に対応する。会議開催の合理化を図るため、温水洗浄器委員会、洗面化粧ユニット委員会と合同開催した。

### (1) アメニティ Cafe 内容見直し

「洗面化粧ユニット」の改訂を行った。

### (2) 調査テーマの検討

昨年度清掃業者による水回りの清掃をテーマにした講演&意見交換を元に「プロの目線で見たお手入れのポイントの把握」を、実演会を通じて実施計画したが、業者と調整が付かず、活動の見直しとなった。

### (3) 参画している専門部会活動情報共有

専門部会で実施している調査事業報告書の情報共有を行った。

（消費者・制度部会、点検推進部会、リフォーム施工部会）

### (4) 移動委員会

12/6 奈良 ダイワハウス工業総合研究所に視察を行った。

### (5) BL 関連

J I S A 4 4 2 4 の制定と J I S 4 4 2 2（温水洗浄便座）の改訂に伴い、BL 基準を改訂に協力した。

## 2. バスルーム部会〔SDGs 目標：3、6、7、9、12、17〕

### 【浴槽委員会】【浴室ユニット委員会】

### (1) 社会的要請に基づく浴室関連施策・課題の情報収集、対応方策の検討

① ベターリビングシャワーユニット検討分科会参画。

② ベターリビング洗濯機用防水パン検討分科会参画。

③ 浴室ユニット BL マーク証紙記載の品名変更についての情報共有

5 月 17 日付の通達資料の共有。変更理由、変更内容、BL マーク証紙切り替えスケジュールの情報提供について共有。

### (2) 快適で健康的な入浴及び入浴に関連する新たな技術・サービス（IoT、家事負担軽減等）に関する調査・研究、情報収集・発信

① 洗剤メーカー施設視察（5 月 17 日）

東京都墨田区の「花王ミュージアム」を見学。

日本の「清浄文化」の歴史や花王の「よきモノづくり」の精神とこれまでの歩みを学んだ。

② 入浴文化としての銭湯の取り組みの視察（5月17日）

東京都墨田区「黄金湯（こがねゆ）」における、地ビールの醸造・提供や宿泊施設併設などの入浴以外の付加価値をつけることで銭湯存続に取り組んでいる事例を視察。

③ 移動委員会（11月22日～23日 青森）

環境省指定国民温泉保養地第一号「酸ヶ湯温泉」の視察・体験を中心に、同地域にある污水・汚泥処理施設「八重田浄化センター」と地域観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」を見学。

(3) 入浴に関する新たな技術・サービスに関する調査・情報収集

「HITOWA ライフパートナー（おそうじ本舗）講演会（1月28日）」

SDGS 目標12（つくる責任、つかう責任）に対応する講演会として、汚れの種類・分析に基づく浴室を長く快適に使うための秘訣や、消費者・現場視点での製品仕様に対する提案をいただいた。

聴講者数：95人

満足度：たいへん満足52%、満足47%と好評であった。

### 3. リビングルーム部会〔SDGs 目標：11、12、15、17〕

#### 【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】

(1) BL 委員より、BL 認定基準改訂（内装ドア、断熱改修用内装パネルユニット）に対する意見伺い、宅配ボックス・物置ユニットの閉じ込め事故の情報提供など説明があった。

(2) リビング関連部品の交換や点検に関して、委員各社の消費者向けのメンテナンス情報の整備状況、発信方法や問合せ体制などの調査を実施した。

(3) 2025年4月に施行される改正クリーンウッド法に関して、（一社）日本建材・住宅設備産業協会（以下、建産協）と共同で「建材・住宅設備メーカーのためのクリーンウッド法運用ガイド」の改訂を行い、協会HPに公開した。また、建産協のクリーンウッド法運用協議会との合同での説明会を開催し、委員各社への運用ガイドの周知も実施した。

(4) エチルベンゼンの室内濃度指針値が改定（ $3,800\mu\text{g}/\text{m}^3 \Rightarrow 370\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）されることが、2025年1月に厚生労働省医薬局医薬品審査管理課から通知された。その事前対応として、VOC 情報交換会（7/31 開催、事務局：建産協）に出席し、関連団体の対応などの情報収集を行った。今後、住宅部品 VOC 表示ガイドラインの改正を関連5団体と連携して進める。

(5) 住宅部品統計ハンドブック掲載データを作成し、提出した。

(6) 2024年10月に宮崎県木材利用技術センター（宮崎県都城市）を視察、木材利用に関する試験や技術、木材活用方法などについての知見を深めた

(7) 各月の運営委員会資料より、国土交通省施策、ALIA 事業計画等を部会内で情報共有した。

### 4. キッチンルーム部会〔SDGs 目標：6、7、11、12、17〕

#### 【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】

(1) キッチンアンケート調査

「システムキッチン設備機器の使用実態調査」について協議。

WEB アンケートを9月に実施し解析、12月まとめ、3月完成。

(2) 見学会・移動委員会

10月「UR まちとくらしのミュージアム」を見学。「同潤会100年展」も開催されており、集合住宅の歴史を資料と現物で振り返り、近代キッチンの間取り

の成り立ちを学ぶことができた。3月は西部ガス㈱長崎工場と平木工業㈱を見学。都市ガスの製造施設、産廃・食品廃棄リサイクル施設と、「食」に直結するインフラの知見を得た。

(3) BL との連携

優良住宅部品認定基準の改正・新設や書籍刊行などについて情報共有。

(4) 専門部会情報共有

消費者・制度部会、リフォーム・施工部会、住宅部品点検推進部会、環境部会、広報部会の動向を共有。

(5) 住宅部品統計ハンドブック

該当機器パブコメ案について内容確認。

## 5. 住宅情報部会〔SDGs 目標：7、9、12、17〕

住宅情報システム委員会、テレビ共同受信機器委員会、火災・ガス警報委員会の個別活動を基本としつつ、必要に応じて3委員会に関連した講演会、施設見学会、研修会等を企画し情報・課題を共有している。

### 【住宅情報システム委員会】〔SDGs 目標：7、9、12〕

住宅設備業界全体のIoT事例紹介等を通じIoTに関する知見を広め、課題の共有と対応策について検討した。特に、海外で広まりつつある Matter の動向を注視し、日本の各企業にとっての脅威と機会をしっかりと把握し対応検討する。また環境変化への対応に関する情報交換を行い、委員各社の取り組みや今後望まれる項目について共有した。

### 【テレビ共同受信機器委員会】〔SDGs 目標：9、12、17〕

「4K8K 衛星放送」の受信に必要な BL 部品を用いた 3.2GHz 伝送システムに関することを中心に、傘下の各 WG と連携し様々な検討を行った。

2023 年度に実施した実証試験の報告書「テレビ共同受信システム機器試験報告書ー新たな運用方法による高出力ブースタの更なる有効性の検討ー」をまとめた。2025 年 3 月に関係団体に配布し、3.2GHz 伝送システムの普及に努める。

### 【火災・ガス警報委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

関連工業会の情報共有、委員会各社の新しい動向の共有を図った。その上で、火災警報器設置の義務化から 10 年以上が経過し交換時期を迎えた既設の住宅用火災警報器の確実な更新が必要である。その更新に向けた施策、および火災・ガス警報器や無線式連動型住宅用火災警報器の更なる普及に向けた検討を行った。

## 6. 給湯・暖冷房部会〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17〕

傘下の各委員会で共通する重要課題がなかったため、部会の開催は行わず、メールベースで対応を実施した。

アメニティカフェの入口の商品画像について、「給湯システム」、「暖冷房システム」、「ソーラーシステム」、各々、適切な内容を部会として協議、特に「暖冷房システム」については、浴室暖房乾燥機、温水ラジエーター、ファンコンベクター、温水式床暖房システム等、関連する商品が多岐にわたるため、新たにイラストを作成した。

### 【ガス給湯委員会】【石油給湯委員会・ソーラーシステム委員会】

〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17〕

(1) 住宅の省エネルギー化・脱炭素化への対応

- ・審議会情報の共有
  - － ガス温水機器のトップランナー制度の次期基準の方向性（経産省）
  - － 給湯器を対象とした省エネルギー/非化石エネルギー転換に向けた制度（案）について（経産省）
- ・令和7年度概算要求（ZEH関係など補助金 国交省・経産省）
- ・令和6年度補正予算（給湯器関連補助金 国交省・経産省・環境省）
- ・省エネ性能表示制度の進捗（国交省）
- ・その他の情報共有
  - － 次世代型太陽光電池官民協議会（住団連）
  - － 第7次エネルギー基本計画について（経産省）
  - － 地球温暖化対策計画について（経産省・環境省）
- (2) 優良住宅部品の普及促進等
  - ・ベタリービング「優良住宅部品認定基準」の情報共有
    - － 2024年4月15日付で公表・施工した「エレベーター（マシナールームレス型エレベーター）」他15品目の改正について
- (3) JGKA 情報共有
  - ・高効率給湯器推進PTでの活動報告
    - － 賃貸集合給湯省エネ事業の給湯機の種別の申請台数実績について
    - － 建築物省エネ性能表示制度について。省エネ給湯機に取り替えた場合にラベルに表示できることを活用して取替えが促進できないかを検討
    - － 高効率給湯器普及ワーキングの活動内容
    - － ドレン排水のカテーテル方式（大阪ガス）の全国展開についての検討
  - ・環境省 デコ活応援隊
    - － エコジョーズ普及の阻害要因となっている全国自治体のドレン排水の取扱いについて公共団体の環境部門からも働きかける提案がなされた件
- (4) 他の部会・委員会と連携して進めている事業について
  - ・2023年度専門部会調査報告書の情報共有
    - － 住宅部品の適切な時期の取替喚起に向けた調査
  - ・住生活基本計画の見直しに向けた住団連の支援WG情報共有、意見交換
  - ・アメニティカフェ ユーザーインターフェイス改善について
- (5) 移動委員会の開催
  - ・10/4 大日本塗料（株）コーティング技術センターの見学を実施

## 【電気給湯委員会】〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17〕

- (1) 住宅の省エネルギー化への対応（住宅政策の情報収集と対応検討）
 

住宅の省エネ基準適合義務化、ZEH 普及などの省エネ性能向上に関する施策や給湯機器の省エネ関連基準等（カーボンニュートラルに向けた施策、取り組み、建築物省エネ法、トップランナー基準）の見直しなど国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上および高効率給湯機の普及拡大に向けた取り組み等について意見交換を図った。
- (2) 情報発信
 

「アメニティ Cafe」の電機給湯機関連について内容更新が必要かについて意見交換を行い、今年度は更新の必要性はないことの確認を行った。
- (3) 住宅部品統計ハンドブック
 

掲載内容について①市場動向コメント、②統計データについて確認と検討を行った。
- (4) 見学会・研修会の実施
 

10月18日「水素情報館東京スイソミル TOYOTA MIRAI SHOWROOM」を視察した。

**【暖冷房システム委員会】** [SDGs 目標：3、7、9、11、12、13、14、17]

(1) 国の動向に関する情報共有

- ・経産省 省エネ小委員会の情報(事務局)
- ・国交省 住宅セーフティーネット制度の情報(事務局)
- ・住団連 CNの実現に向けた住宅産業の取り組み(事務局)
- ・経産省、国交省 2025年度各支援事業(事務局)
- ・国交省 次期住宅基本計画の骨子情報(委員)

(2) BL 関連情報の共有

- ・優良住宅部品認定基準の改正(ハイブリッド給湯暖房システム)等
- ・賃貸省エネ支援事業、エコジョーズ取り換えパンフレットの紹介と各委員会社への配布

(3) ALIA 関連情報の共有

- ・こども応援プロジェクトの紹介

(4) その他

- ・住宅部品統計ハンドブック作成の協力
- ・「水回りの良好な温熱環境の実現に資する製品リスト改訂

(5) 移動委員会 11月8日

「UR まちと暮らしのミュージアム」見学

(6) 委員会活動

- ・各委員会社の CN の取り組みや事業所紹介など相互理解と情報交換を実施
- ・CN 推進のための(賃貸)集合住宅への EJ 推進案の検討と共有

**7. 開口部会** [SDGs 目標：1、2、3、7、8、9、11、12、13、14、15、16、17]

(1) 調査・情報収集と意見交換

①ベターリビングからの優良住宅部品認定基準の改正案について情報共有と意見交換を行った。

JIS A 4702 (ドアセット) 及び JIS A 4706 (サッシ) における断熱性、断熱性の試験及び計算、日射熱取得性の計算方法及び日射熱取得率の BL 認定基準化について

「防犯 BL-bs 部品交換等支援」運用見直しについて

②2024年度版住宅部品統計ハンドブック

「2024年度版住宅部品統計ハンドブック」出荷統計データの情報提供を各担当委員会より行った。

③調査・情報収集テーマの検討(サッシ委員会)

新たな社会要請(脱炭素等)への対応を目的に、旧アルミサッシ委員会の調査報告の実績を参考として2025年度調査実施予定のテーマを決定した。

④良質な住宅部品の供給・普及の為に住宅・住宅部品に関わる課題への対応  
墜落防止手すり、隔て板の認定基準改正内容の確認と情報の共有化

(2) 開口部会の各委員会の活動内容の共有

以下の各部会、委員会及び他団体情報を共有し、連携を行った。

① サッシ委員会

- ② スチール部品委員会
- ③ 手すりユニット・補助手すり委員会

◇専門部会・委員会

- ①広報部会
- ②消費者・制度部会
- ③環境部会
- ④リフォーム・施工部会
- ⑤業界連携委員会
- ⑥点検普及ビルダー対応委員会
- ⑦窓の熱性能審査委員会

これらの部会、委員会、の情報により、開口部会の活動に対する方向性や課題等の共有に寄与した。

**【スチール部品委員会】**      **〔SDGs 目標：3、7、12、13、14、16、17〕**

- (1) 良質な住宅部品の供給・普及
  - ① 鋼経協と連携し補助金内容を熟知させた。
  - ② 住宅部品統計ハンドブック発行に対して、データの提供、確認を行った。
  - ③ BL 認定基準、試験方法について、J I S の変更に伴う対応の協議を行った
- (2) 社会問題分野での SDGs 達成への貢献
 

ALIA こども応援プロジェクトに関する情報発信 ALIA 参加企業の「こども食堂」への商品等の提供についての活動状況調査・推進を行った。
- (3) 政策提言・提案・情報発信の強化
 

住宅の省エネ化への支援強化に関して、玄関ドア断熱効果の情報発信について委員会内での意見交換を行った。
- (4) その他
 

当委員会担当のアメニティ Cafe の内容を最新情報に一部修正を行った  
ALIA 内、他団体報告の共有

**【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】**      **〔SDGs 目標：11、12、17〕**

- (1) 良質な住宅部品の供給・普及
  - ① 墜落防止手すりの認定基準改正（2024 年 8 月 1 日公表・施行）の内容を確認し、情報の共有化を行った。
  - ② 隔板の認定基準と性能試験方法の改正（2024 年 8 月 1 日公表・施行）の内容を確認し、情報の共有化を行った。
  - ③ BL 証紙頒布拡大に向け各社の意見収集し BL との協議を行い、「墜落防止手すり BL 認定品に関する実情と問題点」を取り纏め、次年度も継続していく事とした。
- (2) 2024 年版統計ハンドブックに掲載する為、各委員会社より 2023 年度の出荷統計、データの提出を行った。
- (3) アメニティ Café の見直しを行い、墜落防止手すり補助手すりの画像提供を行った。
- (4) 10 月 18 日に、神戸市の竹中大工道具館にて、建設の背景・目的、展示物の見学を行った。

## 【サッシ委員会】〔SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、15、17〕

- (1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及を推進する。
  - ① 建築物省エネ法・ZEH など省エネ性能向上に関する施策などの情報収集・共有および WindEye の利用拡大に向けた普及促進
  - ② 事業者が使いやすい BL 部品の提案と BL 部品認定基準改正作業の協力
- (2) 新たな社会要請（脱炭素等）への対応として継続的に最新情報を収集し、内容の深堀と課題抽出及び今後の方向性について検討
  - ① アルミサッシ生産での CO<sub>2</sub>排出量の算出と評価
  - ② 防災・レジリエンス対応として、防災シャッター、止水板、防災安全ガラスなどの情報
- (3) 窓（外窓交換、内窓設置など）、ドアの断熱改修の省エネ効果や課題などの情報収集を行い、内容の深堀と課題抽出及び今後の方向性について検討する。
- (4) 消費者への認知・浸透に向けた情報発信の強化
  - ① 「住宅部品点検の日」、「ジューテン」サイト、また「自分で点検！ハンドブック」、「住宅部品 経年劣化スタディブック」などのツールを活用した普及・啓発
  - ② アメニティ Café などの改訂をタイムリーに行い消費者への認知・啓発を促進
- (5) 「ALIA こども応援プロジェクト」の推進に向けて、商品等提供と活用状況等のフォローアップを行った。
- (6) (一社) 日本サッシ協会、(一社) 建築開口部協会などの関連団体と温熱／省エネ、点検／リフォームなどの情報共有を図り普及・啓発を進める。
- (7) サッシ委員会としての初年度スタートに際し、スムーズで効率的な運営を行った。

## 8. 外皮部会 〔SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17〕

- (1) 高性能な外皮仕様の普及啓発
  - ① 消費者向けセミナーの開催  
昨年度に引き続き、(公益社団法人) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会 (NACS) と相談し、本年も下記日程でセミナーを実施した。
    - ・日時：9 月 20 日 19:00～ (WEB セミナー)
    - ・テーマ：「住まいの省エネ対策と支援制度について」説明は外皮部会折原委員。暖冷房以外の省エネや補助金などについての内容を加えて資料を作成した。聴講人数は 58 名であった。当日欠席者には動画を配信していただいた。
  - ② 事業者向けセミナーの開催  
昨年度に引き続き、工務店・設計事務所向けセミナーを下記日程で実施した。
    - ・日時：2025 年 2 月 27 日 PM (WEB セミナー)
    - ・記念講演①：近畿大学 岩前副学長（講師都合により映像を流した）  
演題「住宅再考～人の健康の観点から～」
    - ・記念講演②：鳥取県 住宅政策課 企画担当 槇原氏  
演題「鳥取で生まれたとっとり健康省エネ住宅「NE-ST」の次なる挑戦」外皮部会からは「健康・安全・安心な外皮のススメ」として平岡委員が説明した。聴講人数は約 130 名であった。
- (2) 情報共有
  - ① ベタリービングより「住宅の良好な温熱環境実現推進フォーラム」の情報共有。運営委員会や住団連の性能向上 WG などの情報について共有した。

- ② 住団連の性能向上委員会・WG の情報について共有
- ③ 運営委員会・リフォーム施工部会の住団連住宅ストック委員会の情報について共有
- (3) 移動委員会  
2月16日・17日に鳥取住宅フェア（NEST 住宅体感ハウスなど）と鳥取の高断熱ビルダーの（株）ヤマタホームのモデルハウスを視察。

## 9. 共同設備部会

### 【給水ポンプシステム委員会】 【SDGs 目標：12】

#### (1) 給水ポンプシステムの維持管理の重要性啓発活動

東管ニュースへの広告掲載

⇒10月号に、予防保全・保守点検の重要性について広告を掲載し市場に対する啓発活動を実施。

管工機材・設備総合展（東京・名古屋）にて、マンション管理関連者へのポンプ点検啓発チラシを配布し、日常点検の重要性を訴えた。

#### (2) BL 制度の改定、改正への協力

給水ポンプの BL 規格の改訂に協力

⇒通信機能を有した、「常時監視型」および「随時点検型」の監視機能付き給水ポンプの BL-bs 規格改訂に協力した。又、BL-bs 製品を管工機材・設備総合展等に出展し、当該規格認定製品について PR 活動を行った。

#### (3) 会員各社の見識を広げる為の見学会及び移動委員会

移動委員会の実施

⇒山形県山形市水運用センターを見学し水道施設に関する見識を深め、ポンプ業界の今後の課題等について意見交換を行った。

#### (4) 「アメニティ Cafe」を充実するため、現行の掲載内容を精査し、新製品情報等を更新する。

⇒写真データの更新の有無を各委員に確認し、一部の写真の差替えを実施した。

### 【給水タンク委員会】 【SDGs 目標：11】

#### (1) 給水タンク安心支援サービスの運用

登録状況データをベターリビングより会員各社へ送付した。

#### (2) 各種給水タンクの出荷実績調査

23年下期と24年上期の出荷統計集計を完了した。

#### (3) 水槽の重要性の広報活動

応急仮設住宅 に関する資材、器材の供給能力調査

供給可能条件として、「1槽式および2槽式で特注品でないもの」を追加し、数量は前年度と同様で一般社団法人プレハブ建築協会へ提出

#### (4) 給水タンクにおける課題・社会要請への対応（25年度継続）

本年度より、レジリエンスに加えてカーボンニュートラルなどの観点からも検討

し、調査の範囲を含めて実施。

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく水道の耐災害性強化について意見交換を行った。

能登半島地震の被害状況などを「新水槽ビジョン」への反映を検討した。

#### 【エレベータ委員会】〔SDGs 目標：9、12〕

(1) BL 認定基準適合確認自己チェックリストに関し、各社意見の取りまとめ作業を実施した。

(2) 地震災害に対するエレベーターの在り方について考えを深めることを目的として「東京都北区防災センター」を見学した。

(3) アメニティ Café リニューアルに関し、最新のエレベーター画像を提供した。

### 10. アウトドア部会

#### 【屋外収納ユニット委員会】〔SDGs 目標：12〕

(1) 小規模な倉庫の関連法規に関する調査・研究

鋼製物置における地震に対する耐久性の調査・研究として、第3回目となる実大物置による耐震試験を、2024年11月に文化シャッター(株)ライフイン環境防災研究所にて実施した。田窪工業所製物置を試験体とし、地震時の挙動及び、耐震性についての実力を検証すると共に、固有振動数や減衰比の確認を実施。積雪地仕様での耐震試験の結果、倒壊には至らなかったが、壁や棚端部、アンカー金具等の変形が確認された。

(2) アメニティ Café 掲載内容の見直し

現在掲載中の製品画像更新の要否について検討を実施。廃盤となった物置及びガレージの画層差し替えを実施した。(1)の内容を踏まえた掲載内容の見直しは次年度に実施する予定。

(3) プレハブ協会から定期的に行われる鋼製物置の供給可能数量報告

各メーカーにて供給可能数の調査を実施し、集計結果を報告した。

(4) 見学会及び移動運営委員会の実施

移動委員会として、2/28に日産自動車追浜工場見学を実施した。

#### 【郵便受箱委員会】〔SDGs 目標：9、11、12〕

郵便受箱の年度出荷データを集計して動向分析を行った。また、住宅部品統計ハンドブックにデータ提供を行い市場動向についてコメントした。(宅配ボックス委員会と合同実施)

#### 【宅配ボックス委員会】〔SDGs 目標：7、8、9、11、12〕

(1) 宅配ボックスの年度出荷データを集計して動向分析を行った。また、住宅部品統計ハンドブックにデータ提供を行い市場動向についてコメントした。

(2) 国土交通省に訪問の上、国土交通省と経済産業省が次年度も4月を「再配達削減PR月間」として宅配便・eコマース・通販の事業者と共に再配達削減に向けた取り組みを推進することを確認し、意見交換を実施した。

(3) 子育てエコホーム支援事業へのフォロー対応を引き続き実施した。

(4) 子育てグリーン住宅支援事業への対応と実施内容を共有した。

(5) 子育て支援型共同住宅推進事業へのフォロー対応を引き続き実施した。

- (6) 東京都（環境局）に訪問の上、東京都が物流 2024 年問題への対応として取り組む宅配ボックス設置支援について確認し、意見交換を実施した。
  - (7) 設置時の締結方法について意見交換し、業界でのあるべき姿について議論した。
  - (8) ボックスの閉じ込め防止機能など、安全性に関わる機能・構造について意見交換した。
- （郵便受箱委員会と合同実施）

## 11. 換気・配管システム部会

### 【換気ユニット委員会】〔SDGs 目標：3、7、12、13、14、17〕

- (1) 環境・健康に配慮した換気設備の訴求
- (2) 安全安心な換気設備のあり方の訴求
- (3) 情報の収集と共有
  - ・建築物省エネ法、ZEH など省エネ性能向上に関する施策について、情報収集、課題把握等
  - ・関連する国の施策（規制、補助金、税制）の動向に関わる情報収集と意見交換
  - ・活動実施するにあたり、有識者との情報交換、関連施設見学で見識を深め、より充実した情報発信につなげる。
- (4) 換気に関する実証実験
  - ・第1種換気と第3種換気の違いの実験を実大実験施設（パナソニック）で実施した。
  - ・実験の結果、1種換気の方が換気スピードが速いことがわかり、1種換気の優位性・換気的重要性を喚起する。
- (5) 専門家によるセミナーおよび意見交換会  
YMO 合同会社山田様による換気設計に関するセミナーを実施した。  
換気設計における意見交換会及び質疑応答
- (6) 関連施設視察  
ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンターへ訪問した。
  - ・日建設計による設計でリードプラチナ取得された建物を見学
  - ・地中熱を利用した空調システムの一部を見学
  - ・ビル全体が ZEB 認証、ZEB 設計でエネマネ状況なども確認

### 【配管システム委員会】〔SDGs 目標：9、12、17〕

- (1) 配管システムの点検について点検内容/交換時期等のガイドライン策定を目的とし、居住者による点検を可能とするため、点検チェックシートの作成について検討した。
  - ・点検項目や点検内容、方法について案出しを実施し、チェックシートの素案まで完成した。
  - ・25 年度、引き続き活動し、チェックシートの完成および周知方法について検討する。
- (2) 講演会の実施
  - ・開催日 2025 年 3 月 4 日（火）
  - ・講演会テーマ  
「トイレ空間における衛生的な水環境と給排水衛生設備の感染症防止等」
  - ・講師 関東学院大学 建築・環境学部 大塚雅之教授
  - ・ZOOM にて開催
- (3) 情報共有
  - ・ALIA 運営委員会各種資料・報告書

- ・国交省からの情報 など

## Ⅶ. その他の委員会

### 1. 窓の熱性能審査委員会 【SDGs 目標：7】

#### (1) WindEye の普及促進

##### ①TB2D/BEM の講習会（9 月 11 日）

WindEye への登録に必要となるデータの計算方法の習得について講習会を開催し、3 社 6 名が受講された。

##### ②WindEye の申請サポート

新規メーカーの登録申請に向けたサポートを実施した。質問対応、計算代行とともに初の有償での請負を行った。

#### (2) WindEye の定期的なバージョンアップ

##### ①WindEyeGlass の Uw 値の更新

建築研究所技術情報の次回更新（2025 年 4 月予定）において、三層複層ガラスを用いた窓の熱貫流率の簡易的評価が変更となるため、WindEyeGlass で表示される Uw 値を更新するための検討を行った。技術情報の更新に合わせてバージョンアップを予定する。

##### ②操作性向上の改良検討

WindEye の操作性向上のため、画面構成や操作手順の見直しを検討した。引続き住宅設計者等からも意見集約を行い改良案を作成していく。

#### (3) WindEye の新機能開発

##### ①住宅等の省エネ基準適合義務化に対応する WindEye の検討

WindEye の省エネ基準適合に資する機能を確認し、引続き検討を行った。

##### ②新機能（WEP 計算機能）追加の検討

WindEye を継続的に発展させていくことを目的に、JIS A 2104(住宅用窓のエネルギー性能-計算手順)に基づく性能の提示に向けて検討した。

8 月 30 日には検討結果として「窓のエネルギー性能 WEP の試算と単一評価指標導入に向けた検討」を日本建築学会大会（東京：明治大学）にて発表した。ユーザーにとって分かりやすい評価方法を引続き議論し、次年度の学会大会に向けて発表準備を行った。

#### (4) 申請登録数

- ・WindEye申請、審査

フレーム・ドア：488 窓種 2548 断面、ガラス：基礎データ 4 点、遮蔽物（ブラインド）：申請無

### 2. 統計ハンドブック編集PJ 【SDGs 目標：12】

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2024年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員企業をはじめ関係団体等に広く情報提供した。

- ・住宅部品（商品収録数：商品区分59、品目分類92種）の統計データ。
- ・原則として国内全出荷数量のデータを掲載し、住宅用推定比率より、住宅部品の全体市場規模を算出した。
- ・2024年度版から ALIA 推計単価の利用を停止した。